

メッセージアウトライン

2014年10月19日（日）

聖書箇所：Iコリント15：12～20、使徒23：1

タイトル：「二種類のもし～」

テーマ：歴史的にすでに起こったことについて、私たちはそれを変えることができない。

歴史に「もし」はない。過去のことでは変えることのできないことについての「もし～」と、未来に向かって変えることのできる「もし～」について考えてみる。

はじめに：

私たちの短い人生の中にも「もし～であれば」と考える場面がいろいろ思い出されるはず。

歴史の中で一番「もし～であれば」と思う事件は何だろう。

\*創世記3章に記されている、アダムとエバが神の命令に背いた事件が起らなかったら人類はどうなっていたのだろうか。しかし、アダムとエバが神に背いた事実は変えられない。

\*神がその時に人間を見捨てておられたらどうなっていたか。考えるだけでも恐ろしい「もし」である。しかし、神は人間を見捨てられなかった。

本論：

◎歴史の中でどうにも変えることのできないことはあまりにも多い。しかし、変えることができないゆえに感謝なことはないだろうか。

\*イエス・キリストの誕生と十字架の死と復活、これは決して変わることはない歴史的事実である。

\*パウロはIコリント15：1～4で、福音の三要素を歴史的事実として語り、特に12～20節でキリストの復活を否定する人々の存在に言及し、「もしキリストがよみがえらなかったのなら」、クリスチャンと呼ばれる人ほど惨めで哀れな存在はないと語っている。パウロは多くの復活の証人を挙げて、復活が歴史的事実であることを証明している。

\*「キリストは眠った者の初穂として死者の中からよみがえられました」（15：20）

\*動かしがたい歴史的事実としての死者の復活。「もし死者の復活がないなら」「キリストが復活されなかったら」という「もし」はありえないのである。これは歴史に「もし」がない恵みである。クリスチャンの救いの土台はゆるがない。

◎もう一つ考えたい「もし」（現実と未来を変化させる「もし」）

\*「使徒の働き」には、キリストに徹底的に従ったクリスチャンの姿と、教会に示された神のみわざと栄光が満ちている。「もし」現代の教会が彼らの模範に従うなら、一体何が

起こるだろうか。「使徒の働き」から数箇所チェックしてみよう。

①4：32～33

「信じた者の群れは、心と意思を一つにして、だれひとりその持ち物を自分のものと言わず、すべてを共有にしていた。使徒たちは主イエスの御国を力強くあかしし、大きな恵みはそのすべての者の上にあった」

②9：31

「こうして教会は、ユダヤ、ガリラヤ、サマリヤの全地にわたり築き上げられて平安を保ち、主を恐れかしこみ、聖霊に励まされて前進し続けたので、信者の数がふえて行った」

③17：11～12

「... 非常に熱心にみことばを聞き、はたしてそのとおりかどうかと毎日聖書を調べた。そのため、彼らのうちの多くの者が信仰に入った...」

④23：1

「兄弟たちよ。私は今日まで、全くきよい良心をもって、神の前に生活してきました」

くもし、クリスチャンが聖書に書かれているみことばをそのまま信じて、従うならこの「もし～」は、現実を変え、良き未来をつくり出すことになるだろう。

結論：

- ◎私たちは歴史を変えることはできない。変えられないゆえの苦しみや悲しみも多々あるが、変えられないゆえに、決して変わることはない主の恵みも溢れている。
- ◎「もし、キリストが人として来て下さらなかったら」、「もし、キリストが十字架にかかって下さらなかったら」、「もし、キリストが復活されなかったら...」この「もし」は絶対にありえないのである。感謝なことに、決して変えることのできない福音は人間の歴史の中で変わることはない光を放ち続けている。私たちの信仰は歴史的事実を土台にしている。それゆえ、救いもゆるがない。
- ◎初代教会の人々が、主を恐れかしこみ、すべてを聖霊に委ねて、みことばを熱心に調べ、教え合い、励まし合い、自己中心をやめ、兄弟愛をもって互いに愛し合った歴史的事実を、「もし」今の私たちが真剣に受け止め、その通り実行に移すなら、教会の中に何が起こるだろうか。主が願っておられる共同体がここに実現し、主のご計画の歯車が大きく動かされることになるだろう。初代教会の人々がキリストの弟子として共同体を築き上げて行った豊かなお手本に、「もし」私たちが従うなら、私たちは現実と未来を変えることができる。